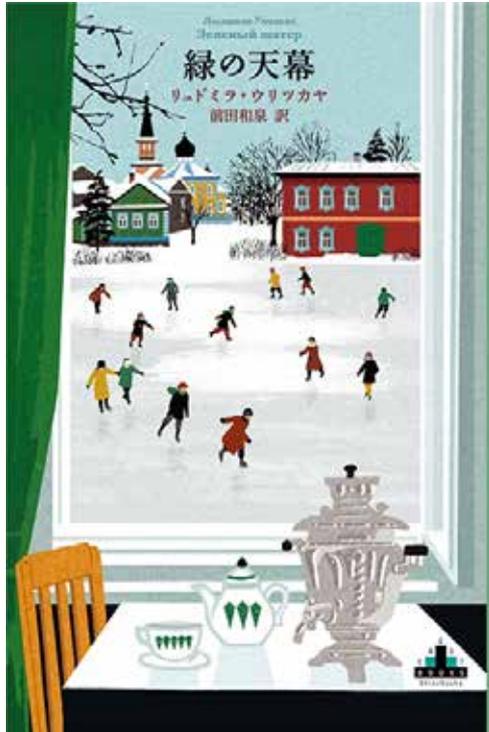


## 訳者からひとこと



### Людмила Улицкая «Зелёный Шатёр»

リュドミラ・ウリツカヤ著、前田和泉訳

『緑の天幕』  
新潮社、2021年

ソ連時代の反体制派を中心とした群像劇で、現代ロシアを代表する作家ウリツカヤが、自身の生きてきたソ連という時代を正面から見据えた骨太の長編小説です。言論統制の様子や、その中で抗い、あるいは流されながら生きてゆく人々の描写は、今もなお、いえ、今だからこそ、ひとときわアクトリアルに感じられます。

(前田和泉)

### Oscar Nakasato *Nihonjin*

オスカー・ナカザト著、武田千香訳

『ニホンジン』  
水声社、2022年

1908年6月18日、ブラジルのサントス港に、781人の労働移民を乗せた一隻の船「笠戸丸」が到着しました。後にブラジルには世界最大の日系コミュニティが形成されることとなります。本書は、ブラジルの日本人移民の歴史が、ある日系人家族に歩みに重ねて語られ、2012年にブラジルの代表的な文学賞であるジャブチ賞を受賞しています。2022年は、ブラジル独立200周年で、駐日ブラジル大使館による記念事業の一環として助成を受けて、刊行されました。

(武田千香)

